



地域とともに歩む西濃用水 ～用水を活用した様々な取り組み～

西濃用水土地改良区連合

岡島頭首工

西濃用水は濃尾平野の北西部に位置する岐阜県の大垣市をはじめ1市6町にまたがる5,342haの農地に農業用水を供給しています。

この地域では昔から、水源として揖斐川及び支派川、ため池並びに湧水等に依存していましたが、浸透が著しく、渇水になるとほとんど水がなくなる常習のかんばつ地帯でした。

これらの抜本的対策として、昭和43年～59年に国営西濃用水土地改良事業が実施され、揖斐川上流の横山ダム(国土交通省所管 総貯水容量43百万 m^3)に水源を確保し、岡島頭首工をはじめ揖東幹線・揖西幹線・西部幹線など用水路約40kmが新改築されました。事業完了に合わせて西濃用水土地改良区連合が設立され、農林水産省東海農政局と管理委託協定を締結し造成された農業水利施設の維持管理を行っています。



日本一の貯水容量「徳山ダム」

昭和39年に完成した横山ダムは度重なる土砂流入により貯水機能が年々低下していました。また、洪水調節等の機能も果たす多目的ダムであるため、かんがい容量の貯水が制限され、安定補給が困難な状況のなかで、西濃用水では、平成6年、14年の大渇水をはじめ毎年のように渇水対策を検討する水利委員会を開催し節水、番水制、排水の再利用等を行っていました。

特に、平成6年は、用水が下流地域まで行き届かず、稲が枯死寸前になるほどの異常事態でした。

平成20年に徳山ダムが完成したことから、横山ダムの洪水調節容量を増強するため、西濃用水の水源は徳山ダムへ振り替えられました。横山ダムと徳山ダムの新たな運用が始まり、徳山ダムにかんがい容量が十分確保されたことから、かんがい用水が安定して補給されるようになり、平成20年以降、渇水対策は行っておらず、水の心配をすることなく安心して農業を営むことができるようになりました。



徳山ダム

地域とともに歩む西濃用水～用水を活用した様々な取り組み～ 西濃用水土地改良区連合

用水を活用した様々な取り組み

昭和59年に事業完了し整備された西濃用水施設は、築造後30年以上経過し、老朽化に伴い水路からの漏水、機器の故障等が年々増加し、施設の補修等の維持管理にも多大な経費と労力がかかるようになってきました。

このため、平成21年～27年に国営西濃用水第二期土地改良事業が実施され、岡島頭首工や各幹線水路の補強・改修及び水管理施設の更新等が行われました。

この水路の改修に併せて、用水を活用した小水力発電所2箇所(揖西70kw、揖東31kw)、管理所敷地を利用した太陽光発電所1箇所(47kw)を設置し、再生可能エネルギー利用によるCO₂削減に貢献すると共に、売電収入を用水施設の維持管理費に充当しています。



揖西発電所

西濃用水は農業に利用されているだけでなく、防火や消雪、洗い場などの生活用水や、集落内水路の水質浄化や癒やしの場などの環境用水として利用されたり、大雨の時は用水路に雨水が入り洪水防止機能を果たすなど様々な働きがあります。

また、用水路や水辺にはたくさんの生物が生息しています。池田町を流れる東川には用水の水が入り、ホタルの生息に貢献しています。

毎年6月に開催される「ホタルまつり」では、農業用水の様々な働きについてパネルやパンフレットでPRをするブースを設け、啓発用語入りのタオルやうちわの配布を行い、農業用水に興味を持ってもらう活動をしています。



PR活動

更に、毎年地域の中学生を招いて西濃用水施設について幅広く理解してもらうための学習会を行っています。

西濃用水の果たす役割と未来に向けて

農業の安定的な生産を支えるのは農業用水であり、その用水を田畑へ安定的に送ることが、当連合の最大の役割です。

地域農業を取り巻く状況は、高齢化などによる農業従事者の減少、担い手への農地の集約化に伴い、大規模農家や企業的な農業を行う農業組織が増加傾向にあります。

こうしたなかで、営農形態も変化しており、ブランド米やキャベツ、ブロッコリーなど高収益作物の栽培が増えてきています。

当連合では、前述した様々な用水の活用が十分発揮されるとともに、西濃用水地区の農業者が安心して営農ができる環境を作るため、きめ細かい用水の管理を行っています。

これからも、農業者はもちろんのこと広く一般住民にも利用される農業用水を目指していきます。



田植え作業



ブロッコリー栽培